

令和5年度第2回狭山市子ども・子育て会議 会議録

開催日時 令和5年10月26日(木) 午前10時00分～12時00分
場 所 狭山市役所 6階 604会議室
出席者 大賀委員、粕谷委員、後藤委員、澁谷委員、西本委員、野村委員、
濱田委員、宮野委員、安田委員、安永委員
欠席者 朝川委員、紫竹委員、長尾委員、野口委員、橋本委員
事務局 こども支援部長、こども支援部次長兼課長、子育て支援拠点整備担当
課長、同主任、こども支援課こども支援担当主幹、同主事
傍聴者 0名

1 開 会

2 こども支援部長あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副会長選出

事務局から、狭山市子ども・子育て会議条例に基づく互選についての説明。
安田委員より会長へ野村委員、副会長へ安永委員の推薦があり、異論なしのため、両委員に決定。

5 議 題

《審議事項》

- (1) 入曽地区子育て支援拠点施設等整備事業に係る狭山市いりそ次世代支援センター条例(仮称)について

所管課 (資料1に基づく説明)

<質疑応答・意見等>

委 員 禁止事項として「大声又は、騒音を発する行為をすること」とあるが、子どもたちの遊ぶ声も含めて禁止となってしまうのか。元気よく声を出して遊ぶということは禁止ではないと思うが、確認をさせてほしい。

所管課 子どもの声については、施設整備の中で地域住民の方から、「賑やかで嬉しい」という声も聴く中で、夜遅い時間に聞こえることについては心配している方たちもいる。条例では「禁止」と一言で記載しているが、施設長が近隣の方たちと調整をし、折り合いをつけながら、ご理

解いただきたいと考えているため、質問いただいた、子どもが遊ぶ声に関しては禁止事項にはあたらないと考えている。

禁止事項にあたるものの例としては、当該施設の公共広場は、災害時等を想定して、24時間人の出入りができるようになっているため、夜間に若者が大勢集まってきて、大声で叫んだり、遊んだりしてしまうことである。

委員 保育園を併設すると、送迎で車の往来が多くなると思うが、当該施設の道沿いにある県道は今現在でも大変混雑している。そこへの対策や、自転車で来る方の安全性の確保についてはどのように考えているか。

所管課 道路の拡幅を計画している。また、現水野保育所でも実施しているが、独自のルールを作成し、車のながれが滞らないように工夫をしている。当該施設でも、施設と利用者でルールを作り、事故等が起こらないよう工夫したいと考えている。

委員 子どもたちがいない時間もすごく混んでいる。警察や市役所内の所管課と相談してもらい、押しボタン信号の長さを調整する等して根本的な解決はできないでしょうか。

所管課 警察には以前から相談している。引き続き交渉は続けるが、まずは、ルール作りを行っていききたい。

委員 当該施設近くの裏道は、道幅が狭く、すれ違いがほとんどできない。ルールを決めたとしても、裏道に車がずっと入ってくるようだと思事故が起きやすい。裏道についても道を拡張して作るとか考えていただきたい。朝の時間帯だけでも、何かほかの手を考えてもらわないと大きな混乱が見込まれるのではないかと思います。

所管課 自治会連合会等からご意見をずっといただいていたところで、警察にも何度も相談している。いよいよ当該施設が開所するという事で、実態もわかってくるので、道路整備や、交通安全の担当課とも情報共有しながら対応していききたい。

委員 確かに所管だけで対応していく事は難しいと思う。意見については、役所内で議論いただき（力を尽くしていただき）より良くなるよう努力してください。

委員 入曽地域交流センターで、若い世代のお母さんたちが来るが、お母さんたち同士の交流がなく、色々な知識を得る場所がない。そういう人たちへ、例えば月1回でも良いので、育て方の講演を設けてほしい。

所管課 当該施設内の保育所は、基幹型保育所という位置付けになるので、入曽地域交流センターを利用するお母さんも含め、地域とのつながりや、ネットワークを作っていきたいと考えている。

委員 公共施設なので、誰でも入れると思うが、高齢者方が、会議やサークルでこの施設を利用したいとの申し出があった際は、こども関係の申し出との住み分けはできるのか。

所管課 となりに入曽地域交流センターがあるため、多世代の交流ということで、小さい子どもからお年寄りまで、様々な交流ができればと考えている。今後、うまく入曽地域交流センターと連携しながら、高齢者の方との住み分けや連携を図れればと考えている。また、高齢者の団体には単体での貸し出しを行わないこととなっている。(ネットでの予約もできない) 次世代支援センターの事業や児童館での事業等で利用する予定。

委員 水野児童館が唯一線路をまたがずに遊びに行ける場所だったので、当該施設に行くためには、線路を超えていかなければならないことに不安を感じているお母さんが多い。学年によっては学区を超えて遊びに行ってはいけないというルールがあるので、学校と連携をとっていただき、遊べるような場所を作ってほしい。

委員 (他委員より) 水野児童館がなくなることで、線路をまたがずに遊ぶことができなくなってしまう。水野児童館の跡地にも遊べる場所を作ってほしい。また、地区の偏りについても検討をしてほしい。線路を渡ってまで遊びに行くのは大変。市として工夫や施策を考えてもらいたい。

所管課 水野児童館での、出張児童館や学校での事業実施について関係課と調整を図っていきたい。

<所管課より>

今後、12月議会で条例案を提言し、審議をしていただく。施設のほうは令和6年1月開所を目指しておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

(2) 子どもの人口推移と転入者アンケートについて

所管課 (資料2に基づく説明)

<質疑応答・意見等>

委員 データを見た時に、子育て支援に励めば、子どもを産んでもらえるのではと感じた。全国的に子どもは減っているが、子育て支援に励み、子どもを産んでもらえるような状況を作ればと考える。そのためには、保育を担うマンパワーをどう確保していくかということが重要になってくると思うので、狭山市が先進となって、処遇改善を進めてほしい。また、働いている親の子どもだけでなく、全ての子どもが保育園を利用できるようにしていければと思う。

所管課 当市でも、少しずつ保育士が足りないという状況が感じられているところであり、処遇改善等をしていかなければと考えている。国のほうで配置基準を変えろという方針があるようなので、国の方針が決定するのを待ってから、手厚く考えていきたい。長い目で見ていただく必要はあると思うが、承知しているところである。

委員 保育園でも、子どもを預かりたくても、保育士が足りなくて預かれないという状況がある中、狭山市の保育施設で働く先生のために、保育幼稚園課が求人情報をホームページに掲載したり、ポスターを貼ったりして呼びかけてくれている。そんな中で、中々狭山市の保育士養成校の中から、狭山市の保育所に就職してくれる人がいない状況がある。民間や私設の保育園を含め、もっと魅力ある保育施設へ努力をして、狭山市の保育園に就職してもらえればと考える。また、同時に養成校からも、狭山市への就職を推進していただければと思う。

委員 高校生の段階で、保育士志望者が減っており、それに伴い、養成校に進学する人も減っている。中には、本人が保育士を志望していても、親御さんがそれを止めるケースも散見されている。保育の現場が厳しいという見方が広まっているが、それはチャンスでもあり、世の中の人に保育者は大変だという事実が認知されていることは、保育士の処遇改善等の理解を得る上で良いことだと考えている。保育士が現場に入って心折られる瞬間は、大変さを理解してもらえないとき。行政がしっかりとサポートしてもらえると嬉しい。また、医ケア児についても、同様に保育所に入所できるよう勧めしてほしい。

委員 保育士養成校の学費は、私立だと年間約100万円×2年分かかるが、現場で働けば免除になるような奨学金制度等もある。市含め、もっと世の中に伝わるような宣伝が必要だと思う。

委員 今の子どもたちはもっとシビアで、保育士や看護師がブラックであることを理解している。子育て支援に絡むような職業の人たちをバックアップできるようになると、子どもが増えると思う。投資すべき時は今だと思う。

所管課 宣伝方法の難しさには直面している。そこについては今後も考えていかなければならないと思っている。保育士の仕事の大変さに見合うような待遇を用意できればと思う。現状だと、将来のことを考えると躊躇されてしまう気持ちも理解できる。市として、どこを強みとしていくかは、今後検討していく予定。

(3) 狭山市こども計画（仮称）策定のためのアンケート調査について

所管課 （資料3に基づく説明）

<質疑応答・意見等>

委員 他の市町村と比較をする意味では、同じ内容のほうがいいと思う。

委員 最後の自由回答欄で引き出した意見をしっかり活かすことはできるのか。

所管課 コンサルと相談しつつ、工夫をする予定です。

委員 調査方法は紙で配布、回収するのではなく、紙にQRを載せて配り、回答してもらおうほうがいいと思う。また、本当に困っている子が相談できるような場所を作っておいてあげるといいと思う。（保健所等）

所管課 紙でも回答できるようにしつつ、インターネットでも回答できるようにしている。困っている子に対して、繋がることのできる場所を案内できればと思っている。

基本的にはネットで回答してもらうことを想定している。緊急性のある情報が書かれていた場合は、対応をする。中々対面で子どもたちが打ち明けることができない状況が増えているという実状を鑑み、家庭児童相談室だけでなく、協働事業で「オンラインしゃべり場」という

ものを考えており、対面だけでなく、匿名でLINEのような形で相談できるような場所を作ろうという試みもしている。本当の子どもの意見が出せるような場所を作ろうとしている。時間をかけてやっていきたいと思う。

委員 学校で配布しているタブレットを利用して回答をしてもらう予定ですか。

所管課 学校によって、学習用に配布しているタブレットだから、学習以外で使うのは好ましくないのではという意見もでていたため、ツールについては要検討だと思う。

委員 虐待等の緊急性が高い子どもがいた場合は、絶対に迅速に対応できたほうが良いと思う。アンケートをやるからにはその責任が生じると思う。子どもから発されたヘルプの一本をしっかりと拾えるように、他の各部署と連携してシミュレーションを作る必要があると思う。また、しゃべり場についてだが、子ども同士のコミュニケーションをとるためのツールの構築は、既に子どもたち自身で行っている。そういう実態を確認した上で、もっと実態に即したものでないか無駄ではないか。

所管課 しゃべり場については、実際の不登校の子どもの意見を聞いて、吟味しながら構築している。それほど大きなコストを考えているわけではなく、少しでも多く、子どもたちの意見を拾える場所を作ればと考えている。
実際に6年前に死亡事例があったことから、狭山市の虐待防止ということで、意識して取り組んでいるところなので、緊張感をもって、気を引き締めて信号を逃さないようにしていきたいと考えている。

委員 虐待だけではなくて、子どもがSOSを出した時の対応を、大人側がしっかりと整えておかないと二次被害になってしまう。子どもが大人を信用しなくなる原因にもなりえるので、アンケートを行ってその結果を責任をもって良い施策に結び付けることが大事だと考える。

委員 保護者のアンケートについて、保護者には外国人の方がいらっしゃる、文章を理解することが難しい。そういった方たちがこのアンケートを答えやすくするような工夫や仕組みは考えているのか。

- 委員 親が学校に対応できないと、子どもが不登校になり、非行にはしるようになる。親に対し、日本語を勉強してもらい、文章を理解してもらえようになれば、コミュニケーションのギャップがなくなると思うので、親への言語学習支援を増やしていくと良いのではと思っている。
- 委員 アンケートにもし日本語がよくわからないときは、グーグルやAI等を使えば、アンケートの内容が翻訳できる旨の案内を載せるといいと思う。
- 委員 アンケート全体で、このアンケートをすることにより、何を知りたいのかというところを明確にしてほしい。子どもへのアンケートも、親へのアンケートも、何を聞きたいのかがよくわからない。意見を聞いた上で、どういう実態を明らかにしたいのか、どう活用していきたいのかを、明確にしたほうがいいと思う。アンケートをまとめるときに考えていただきたい。
また、提出は学校を通じてか郵送でとあるが、子どもが親のアンケートを見てしまうという懸念は大丈夫か。返信用封筒を同封する予定はあるのか。
- 所管課 アンケート用紙と返信用封筒を送付する。様式には親と一緒に提出してと書いてあるが、実際は別々に提出してもらうことを想定している。
- 委員 一緒に提出する形だと、なかなか本音を書けないという懸念があるから、親も子も、それぞれが本音を書けるように工夫が必要だと思う。
- 委員 貧困の実態調査で、ウェブ調査前提というのもおかしな話ではあると思う。インターネット環境がなければ答えられない実態調査というよりかは、紙、インターネットどちらも用意して基本的にはネットで回答してもらうのが主流だと思うので、そういう形を市が整えてもらうのは良いと思う。
- 委員 親世代だと、ネットに不慣れな人が多い。貧困の問題にもつながってくるが、インターネットの通信代を払えないという人もいるので、アンケート用紙を送付するというのはいいと思う。インターネットでやる場合には、インターネットに書きやすくするような工夫が必要だと思う。

所管課 このアンケートは、学校を通じて行う予定ではない。インターネットか、返信用封筒を利用しての回答の2択になる予定。

<所管課より>

アンケートの内容については、12月頃にご提示させていただく予定です。お手数ですが、各自ご確認をお願いいたします。

<事務局より>

次回の会議は3月を予定しております。よろしくをお願いいたします。

6 閉会

～以上～